

令和7年度 夢の樹みどり 事業報告書

1 総括

平成29年4月に開設し9年が経過した。徐々に利用者の高齢化が進むにつれ、健康促進が支援における重要なテーマの一つとなり、令和5年度以降、従来の生活支援や福祉就労の取り組みに加え、活動に運動プログラムを多く取り入れている。令和7年度もこの方針を継続し、一人ひとりの希望や状況に合わせたプログラムの実施や運動経験豊富な指導者が事業所に派遣される小平市自発的活動支援事業への参加などを通して、継続的な運動による健康づくりに力を入れて取り組んだ。運動の効果が見えにくい面もあるが、多くの利用者が意欲的に参加しているように見られ、身体を動かすことが習慣化されつつあると感じている。利用者一人ひとりが少しでも長く健康的な生活を送っていけるように、引き続き運動プログラムの充実に力を入れていきたいと考えている。

また、令和7年度は職員間の連携協働の強化に重点的に取り組んだ。特に1Fと2Fの職員間の業務交流（配置交換）は効果があったと感じており、この取り組みにより各職員の配属以外の利用者の特性や業務の理解が進み、職員同士で相互に業務を補完し合う場面や利用者の支援方法等に関する意見交換の頻度が増えている。ただし、内部牽制はまだ不十分な点が多いこともあり、連携協働が組織風土として定着するにはもう少し時間が必要と考えている。

2 事業概要

- | | |
|------------|-------------------|
| 1) 施設名 | 夢の樹みどり |
| 2) 事業種別 | 生活介護 |
| 3) 所在地 | 東京都小平市小川町1-744-1 |
| 4) 経営主体 | 社会福祉法人未来 |
| 5) 利用定員 | 40名 |
| 6) 利用現員 | 44名（令和8年3月31日現在） |
| 7) 法人認可年月日 | 平成14年12月11日 |
| 8) 事業開始年月日 | 平成29年4月1日 |
| 9) 職員 | （令和8年3月31日現在） |
| 管理者 | 1名 |
| サービス管理責任者 | 1名（管理者兼務：常勤換算1.0） |
| 生活支援員 | 24名（常勤換算21.9） |
| 看護師 | 3名（常勤換算1.6） |
| 嘱託医 | 1名 |

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- (1) 資源回収
- (2) 公園清掃
- (3) 使用済み小型家電回収
- (4) 小型充電式電池の分別
- (5) 書類封筒作成
- (6) 紙袋底板入れ
- (7) 缶・ペットボトル潰し
- (8) その他軽作業

2) 生活支援事業

- (1) レクリエーション（月2回実施）
- (2) 旅行（年1回実施）
- (3) 運動プログラム（週3日～5日実施）
- (4) ストレッチ（週3日～4日実施）
- (5) 夕方生活支援事業（週3日実施）
- (6) 小平市自発的活動支援事業（新規に7月から11月まで2か月に1回実施）

3) 行事

- 4月 利用者永年勤続表彰式
- 5月 運動会（於：小平西町グラウンド）
- 6月 公園散策（於：国営昭和記念公園）
- 7月 ウォークラリー（於：イオンモールむさし村山）
- 8月 夏祭り
- 9月 音楽鑑賞（於：東大和市民会館ハミングホール）
- 10月 ハロウィンパーティー
- 11月 旅行（埼玉県秩父方面）
- 12月 動物園見学（於：羽村市動物公園）
- 1月 お正月遊び（於：きつねっばら公園）
- 2月 ゲーム大会
- 3月 人形劇鑑賞（於：小平元気村おがわ東）

6 日課

開所・送迎	8：30～9：00
受入・活動準備	9：00～9：50
朝礼	9：50～10：00
活動	10：00～12：00
（作業・運動PG）	
昼休み	12：00～14：00
昼礼	14：00～14：10
活動	14：10～15：30
（作業・運動PG）	
実績記入・お茶	15：30～15：50
終礼	15：50～16：00
送迎・清掃	16：00～17：00
GPミーティング	17：00～17：15
全体ミーティング	17：15～17：30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) 安全確保

見守りや職員配置の工夫を行い、他害、離接等の事故防止を徹底する。2名体制による身体介護で転倒等の事故防止を徹底する。

【成果と課題】

離接防止の為の出入り口付近の職員配置、不穏化傾向のある利用者への付き添い等により、離接、他害などで大きな事故に至るケースは発生していない。車椅子利用者には職員2名での介助を徹底し、転倒、落下等の事故も起きなかった。

(2) 気持ちの安定化

一人ひとりにあった環境設定や、分かりやすい予定の伝達により見通しを持ちやすくすることで、利用者の情緒面の安定を図る。他害等の可能性ある利用者に対して、原因の探求とその解消により気持ちの安定化を図るとともに、他のコミュニケーション手段の獲得に向けた支援を行う。

【成果と課題】

朝礼などの場面で作業道具を示し見通しをもちやすくする取り組みのほか、視覚情報が多くて不安定になる利用者5名に対してはパーテーションで視界を限定する取り組みを継続している。また、経験による予定の把握や環境への慣れもあり、他害等の問題行動は消失していないが、全般的に利用者の情緒面は安定していることが多い。予定の混乱や周囲の雑音などが不穏化の要因と推察できることもあるが、理由がはっきりとわからないことも多く、令和4年度以降、ヒヤリハットにおける他害の件数は横ばいの状況が続いている（直近の他害件数の推移：7年度上半期32件、7年度下半期34件）。引き続き不穏化の原因の探求と情緒の安定化に取り組んでいきたい。

(3) 健康促進、身体機能の維持向上

- ① 通所前の検温やマスク着用の声かけ、建物内消毒等の感染症防止対策を徹底して行う。
- ② 毎月の体重測定や年1回の健康診断を通して、一人ひとりの健康状態を把握する。
- ③ 車いす利用者等の身体に機能麻痺がある利用者の負担軽減と機能の維持及び向上、長時間の座位を避けるため、毎日1時間程度マットなどで体を伸ばしての静養やストレッチを行う。
- ④ 運動プログラムの充実
 - ア 令和6年度の健康診断結果に基づき、利用者の希望や状況に応じて運動プログラム対象者を増やす。
 - イ 一人ひとりのニーズに応じて、ウォーキング（週3日～5日）、階段昇降運動（週2日～3日）、腹筋運動（毎日）を実施する。
 - ウ 運動場や体育館を借りて、月1回以上利用者全員が運動する機会を作る。

【成果と課題】

- ① 手洗い、消毒、換気、検温、マスクの着用等の基本的な感染対策を継続して実施した。11月20日、21日に実施した旅行中にインフルエンザの感染が広がり、利用者14名、職員8名の計22名が感染した。発熱や咳などの症状が多かったが、重篤な症状となる人はいなかった。旅行中の感染症拡大は初めての経験であり、対応の困難さを痛感した。なお、これ以外に年間を通して事業所での感染拡大はなかった。
- ② 毎身体重測定を行ったほか、8月にはあきる台病院の検診車の巡回という形で健康診断を実施した。健康診断の結果については、利用者に配布し、健康状態について家庭への情報提供を行った。なお、全利用者44名の年度初めの4月と年度末の3月の体重を比較した状況は次の通りである。
 - ◆減少 … 6名（適正体重1名、適正体重超過3名、適正体重未満2名）
 - ◆増加 … 3名（全員適正体重超過の状態）
 - ◆維持 … 35名（適正体重8名、適正体重超過18名、適正体重未満9名）
 - ※ 44名中適正体重9名、適正体重超過24名、適正体重未満11名

- ③ 車いす利用者3名の内2名に対して、週3日～4日の頻度で30分から1時間程度のストレッチを行ったほか、毎日ラジオ体操の際に上肢を動かす動作やトイレ誘導の際にトイレまで介助歩行する取り組みも継続している（職員体制の都合上、トイレまでの介助歩行を毎回実施することはできていない）。座位や立位の保持時間の伸長及び下肢機能や体幹の強化が5年度に見られ、以降その状態を維持している。なお、残りの1名は併用利用している他の事業所で理学療法を行っているためストレッチは行っていないが（歩行は困難）、毎日車いすのフットレストをはずして足を上げる動作やラジオ体操の際に上肢を動かす取り組みを継続しており、前年度と比べとても意欲的に車椅子を自走する様子が見られるようになった。
- ④ ア 令和6年度の健康診断結果（肥満傾向）を踏まえ、前年度まで運動プログラムを実施してきた利用者25名に加え、今年度から対象者を1名増やし、利用者26名に運動プログラムを実施した。
- イ 7名が週3日～5日のウォーキングに継続的に取り組んだ（夏場は熱中症予防のため冷房の効いた体育館内で実施した）。そのほか19名が月1日～週1日のウォーキングを実施し、その内2名が週1日～2日の階段昇降運動、10名が毎日腹筋運動（平均20回）に取り組んだ。腹筋運動は前年度から開始した取り組みであるが、多くの利用者が自発的に取り組んでいる。
- ウ 7月より小平市の自発的活動支援事業に参加した。この事業は令和5、6年度に参加した東京都の運動習慣定着支援事業と同様の内容であり、運動やスポーツ経験豊富な指導者が事業所に派遣され、利用者が楽しく運動できる機会を提供するプログラムである。7月、9月、11月に1回ずつ事業所の活動室でリズム体操、風船バレー、ボッチャなどを行い、多くの利用者が楽しそうな様子で取り組んだ。同事業を実施しない月は近隣地域を歩く取り組みを行い、毎回約20名～25名の利用者が参加し、全利用者が月1回以上運動プログラムに参加することができた。

（4）働くことを通じての社会参加や充実した生活

受注作業（書類封筒作成、紙袋の底板入れ）、資源回収、清掃作業等を通じて働くことで社会参加を行うとともに、メリハリのある生活を送る。

【成果と課題】

一人ひとり取り組む姿勢や時間は異なるが、全利用者が日々作業に取り組み、多くの利用者が流れを理解している様子が見られた。全般的に作業に対する意識の向上も見られ、作業開始前の朝礼や昼礼の場面では、気持ちを切り替えようと集中して司会者の発言や作業ボードを確認する利用者が多かった。また、資源回収先の顧客など、作業を通じて関わる地域の人たちから挨拶や労いの声を掛けられることも多かった。

（5）可能性の伸長

朝礼などの司会を当番制にして利用者が参加できる場面を設け、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

【成果と課題】

利用者が交代で朝礼等の司会を行うことについては定着しており、各利用者が自分に合った方法で司会役を担っている。多くの利用者にとって、人前で話すことや、注目される緊張感や役割を持つことが自分に自信を持つための良い経験になっていると感じている。また、終礼の活動報告の場面で、その日に取り組んだことを充実した表情で発表する利用者が増えている。

（6）これまでの活動の継続、充実を図るとともに、利用者の嗜好、特性等に応じた活動や作業の開発を行う。

【成果と課題】

毎月2回利用者の楽しみとなる活動（絵画、カードゲームなど）を継続している。作業活動については、発注元の業務縮小により、長年続けてきた受注作業（書類封筒作成、紙袋の底板入れ）の受注量が減少傾向にあることから、8月から自主製品として牛乳パックを再生した和紙作りを始めた。週2日～3日、1度に5名程度の利用者が携わり、週にA4用紙10枚程度作成してい

る。薄さ、表面の滑らかさなどが販売できる品質にはなっていないが、次年度も継続して品質向上に取り組む予定である。

2) 人材育成

(1) 連携協働の強化

- ① 1 F と 2 F の職員間の業務交流（一時的配置交換等）を積極的に行う。
- ② 多くの職員が幅広い業務を把握できるような取り組みを行う。
- ③ 現場で適切な指導が行える人材を育成する。
- ④ 職員間の意見交換を活発に行うとともに、内部牽制強化を図る。

【成果と課題】

- (1) 11名の職員が1 F と 2 F の職員間の業務交流（配置交換）を実施した。この取り組みにより、それまで所属していたグループ以外の利用者の特性理解や関係構築が進み、1 F グループと 2 F グループが相互に業務を補完し合う場面が増えている。
- (2) 日常業務内容の一覧表を作成し、全職員へ業務全般の周知を行ったほか、各職員の業務内容の把握状況をチェックした。この結果約4割の職員に日常業務の理解に偏りがあることが判明した。下半期から各職員の把握不足を補う取り組みを開始し、把握できていない業務への配置やマニュアルを活用した引継ぎなどを継続して行った。各職員の業務内容の幅や他の職員の理解が少しずつ広がっている。
- (3) 主任、リーダー、サブリーダーを中心に、日々の業務を通じて利用者支援や職員指導、その他業務全般に必要な判断基準や対応方法をその都度指導し、全般的にスキル向上が見られた。
- (4) リーダー層の職員を中心に、日々のミーティング等で利用者の支援方法や活動内容等に関する意見交換はよく行われている。他の職員への注意を行う職員も昨年度までの数名（主任、グループリーダーなど）からサブリーダー等の中核職員にも広がりを見せている（全職員の3分の1程度）。ただし、職員の過半数はまだお互いへの関心度の薄さや遠慮が見られており、組織全体の風土として定着するには至っていない。

(2) 専門性の向上

- ① 施設長、職員が障害特性などの基本的な知識、個別支援計画の作成・評価の方法、記録の書き方等のスキルの習得を行う。
- ② 利用者の心情理解のためにOJT、研修、意見交換等を活発に行う。

【成果と課題】

- (1) 毎月職員会議の日に全職員で法人の理念や沿革、記録の書き方、障害福祉サービス等の種類など幅広いテーマで学習する時間を設け、全般的に知識、スキルの習得は進んでいる。個別支援計画の作成については、過去の業務執行理事監査で指摘された内容を改めて確認のうえ作成するようにした。前年度の課題であった支援目標の設定の偏りなどが改善された一方で、依然として曖昧な表現や評価の矛盾などが見られており、引き続き施設長を含めスキルアップが必要である。
- (2) 前年度と比べ、ミーティング等の場面で利用者の行動の原因や心情面を考えようとする発言は増えてきており、現場での意見交換もよく行われている。また、多くの職員が利用者とは良い関係性が作られているほか、個々の利用者の特性の把握やリスク管理など、基本的な支援スキルに向上が見られた。

3) 経営管理

(1) 介護給付費の安定確保

1日平均利用者38.7人（44人在籍、出勤率88%）を目標（令和6年度実績1日平均利用者38.0人—令和7年1月末現在）とする。必要な職員配置数を維持し、重度障害者支援加算の算定（25人）を継続するほか、人員配置体制加算Ⅰ型を算定する。

【成果と課題】

1日平均利用者数は38.6人となり、やや目標は下回ったものの、前年度の38.0名より増

加した。また、重度障害者支援加算の算定（25人）を継続したほか、利用者の障害支援区分アップ（3名の区分が4から5に変更）も影響し、給付費収入は約1億5,235万円となり、前年度比約577万円増となった。

（2）経費削減

使用していない活動場所（特に玄関等の利用頻度の高い場所）の電気やエアコンの消し忘れをなくし、節電を徹底する。

【成果と課題】

玄関、1F廊下、2Fエレベーターホール等の照明の消し忘れは依然見られており、節電は徹底できなかった。

（3）計画的な予算執行

毎月の月次試算分析を正確に行うとともに、必要に応じて補正を行い、年間を通して計画的に予算執行を行う。

【成果と課題】

毎月の月次試算分析に基づき、概ね計画的に予算を執行することができた。緊急的な支出も発生しなかった。

8 その他の成果と課題

1）社会福祉法人六三四と夢の樹みどりの利用者の合同送迎実施

他市居住の利用者の送迎を効率化させるために、社会福祉法人六三四と夢の樹みどりの利用者の合同送迎を平成30年2月から継続して実施している。

9 事故等報告

- 1）12月 利用者の送迎中、交差点で停止線を超えて停止したため当方車両を後退させたところ、後方不注意で当方車両の後ろに停車していた相手車両と接触し、相手車両のフロント部分の一部が破損した。双方に怪我人はなく、警察に通報の結果、物損事故との扱いになった。当法人加入の保険にて損害賠償を行った。
- 2）2月 利用者の送迎中の車両を運転する職員が交差点に複数あった信号機の確認を見誤り、信号機信号赤色無視の道路交通法違反となった。当該職員含め全職員に道路交通法遵守について周知した。

10 開所状況

- | | | | | |
|--------|------------|-----------------|---|-----------|
| 1）開所期間 | 自 | 令和7年4月1日 | 至 | 令和8年3月31日 |
| 2）開所日数 | （1）週開所日数 | 5日間 | | |
| | （2）開所時間 | 午前9時～午後4時 | | |
| | （3）年間延開所日数 | 241日間（前年度 242日） | | |
| | （4）平均活動時間 | 7時間 | | |

11 利用状況

- | | |
|------------|--------------------|
| 1）利用者延人員 | 9,322人（前年度 9,174人） |
| 2）1日平均利用人員 | 38.6人（前年度 37.9人） |
| 3）体験実習者延人員 | 17人（前年度 18人） |
| 4）1日平均実習人員 | 0.1人（前年度 0.1人） |
| 5）実習者実人員 | 7人（前年度 10人） |

1 2 利用者状況（令和8年3月31日現在）

1) 年齢

20歳未満	1名
20歳以上30歳未満	21名
30歳以上40歳未満	16名
40歳以上50歳未満	5名
50歳以上60歳未満	1名
60歳以上70歳未満	0名
70歳以上	0名

2) 障害の状況

愛の手帳1度	2名（内身障手帳所持2名）
愛の手帳2度	37名（内身障手帳所持2名）
愛の手帳3度	2名
愛の手帳4度	3名（内身障手帳所持2名、精神保健手帳所持1名）
身体障害者手帳1級	6名（内愛の手帳所持6名）
精神保健福祉手帳2級	1名（内愛の手帳所持1名）

障害支援区分

平均障害支援区分 5.1（前年度 5.1）

3) 通所手段

送迎車利用	44名（内1名交通機関利用と併用）
交通機関利用	1名（送迎車利用と併用）

4) 居住状況

管内居住	34名	管外居住	10名
------	-----	------	-----

5) 性別

男性	37名	女性	7名
----	-----	----	----

1 3 利用者工賃

平均工賃	1人	月額	:	4,722円（前年度 4,663円）
		日給	:	263円（前年度 274円）

1 4 余暇支援実施状況

- 1) 参加者 : 実23名 延べ662人（前年度実績 実23名 延べ497人）
2) 延実施回数: 147回 （前年度実績130回）

月別実施状況	実施月	実施回数	延参加人数
	4月	: 13回	56人
	5月	: 11回	49人
	6月	: 15回	74人
	7月	: 13回	59人
	8月	: 12回	48人
	9月	: 12回	46人
	10月	: 14回	75人

1 1 月	:	1 1 回	5 1 人
1 2 月	:	1 2 回	5 2 人
1 月	:	1 1 回	5 0 人
2 月	:	1 0 回	4 4 人
3 月	:	1 3 回	5 8 人
合計		1 4 7 回	6 6 2 人

内容別実施及び参加状況	内容	実施回数	延参加人数
	パソコン	3 1 回	1 1 2 人
	映画鑑賞	2 9 回	1 6 6 人
	料理	2 5 回	1 6 7 人
	ゲームセンター	2 4 回	7 4 人
	ボウリング	2 2 回	8 8 人
	ドライブ	1 5 回	5 2 人
	散歩	1 回	3 人
	合計	1 4 7 回	6 6 2 人

1 5 環境の整備

定期的に施設内外の清掃を実施し、年間通して清潔な環境を保つことができた。

1 6 防災

自衛消防訓練を年 2 回実施した。